

淀川流域環境・利用部会 様

4月から6～7月の河川敷、中洲や寄州、水陸移行帯は野生動物が繁殖のために利用する大切な場所であり住処となっています。日本野鳥の会京都支部では下記の2点について意見を述べさせていただきます。

繁殖期の除草、野焼きについては時期をずらして頂きたい。

理由：多様な生物の命を守るため。

木津川に生息する野鳥（特にコアジサシ）の繁殖できる地域を確保するため、特別に地域を定めてその環境の整備を早急に試みて頂きたい。

理由：木津川の砂州はチドリ、アジサシ等が好んで生息する環境にあり、かなり昔から渡り鳥「コアジサシ」（環境省 RDB 類）が繁殖しています。ところが近年、河川敷を遊び場にする人々が増え、4輪駆動車やバイクの乗り入れ、ラジコンプレー、ゴルフ競技などなど・・・。

ラジコンでは怪我人も出たと聞きました。

これらの遊びが野鳥の繁殖に与える影響は大きく、木津川のコアジサシについては現在1ペアが残るだけになってしまいました。ところがようやく今年生まれた2羽のヒナも外敵に襲われてしまい、その姿さえ見ることができなくなってしまいました。

このままでは京都府の絶滅種として RDB に掲載される日もそう遠くはないと思えません。

以前、流域委員会のご意見にもありましたが、流域の中に（今回は木津川）特定地域を定めて、その場所はあらゆるものも立ち入れない、そのようなゾーンを設定し、守るべき生き物は積極的に護る、という対策をご検討頂きたい。

来年の春、コアジサシが日本へ渡ってくるまでに・・・。